

設立の背景と経緯

1. 背景

- ・昭和30年代の来原地域における青壮年層による地域活動は、当時の来原青年団新聞部の中に残されているように活発なものが見られたが、40年代に入り経済高度成長期の波に追われ活動も停滞気味であった。
- ・3ヶ村合併後、吉田高校来原分校は統合され廃校となった。来原分校については、地域住民として分校開設時から校舎建築、グラウンド建設等昭和20年代後半にかけて来原村民挙げて村有林から建築木材を切りだし、グラウンド建設に山を切り開き、土の運搬等村民全体で携わった経過もあり、高校跡地については多くの関心もたれていた。
- ・来原村が合併し高宮町として発足後の来原地域は、当時の来原農業協同組合が地域のリーダー的役割を持ち、来原小学校の運動会等も地区民運動会と併せ開催され、地域内を6つの色別に分け、その色別組織は行政区を超えスポーツ活動を中心に機能していた。

2. 取り組みと組織化

- ・昭和50年来、来原地域青壮年を中心に活力ある地域づくりを進めようという声が高まり、身近なスポーツ活動を通して地域活性化をと有志により話し合い検討が重ねられた。
- ・昭和51(1976)年初めての試みとして区内色別ソフトボール大会が開催され、更に地域色別ソフトボールリーグ戦の開始に至った。

- ・また、併せて来原地区民にとっては、吉田高校来原分校は地区民挙げて関わったという経過もあり、青壮年リーダーのもと高校跡地の地区民への開放、遊休施設の整備充実等を求め、地区内各団体、機関、有識者への合意をもって町への請願を行い、昭和53(1978)年グラウンド照明施設整備が完了した。
- ・昭和52(1977)年明けには、この取り組みをした青壮年を基盤にスポーツ活動を中心とした「来原親睦会」として組織され、規約も条文化された。この「来原親睦会」が「来原地区コミュニティづくり連絡協議会」の母体的役割を果たす。
- ・昭和53(1978)年スポーツ活動による地域活性化活動から、来原地区内のあらゆる団体・機関・グループを含めた地域活性化への取り組む組織として、来原分校跡地の施設「ふるさと学園」を拠点に「来原地区コミュニティづくり連絡協議会」が発足した。

組織の変遷

昭和53(1978)年当時、体育団体関係者が中心になり、色々な団体が結集して廃校になった吉田高校来原分校の校舎並びに運動場を地元住民に開放してほしいとの住民運動が実を結びその結果できた組織である。

はじめは、来原地域内にあるあらゆる機関団体グループなど29集団を網羅して編成し「コミュニティづくり来原地区連絡協議会」として発足した。

当時は、体育や文化活動が主体でコミュニティづくりが行われた。後に「原田カラス」

「来女木ひまわり会」も来原コ連協に結集し、活動の充実を図った。特に毎年行われている地域振興懇談会は、地元から地域課題を提出し行政と話し合っ解決するという方法で、住みよい地域づくり町づくりの機能を発揮してきた。

このように来原コ連協も来原地区の機能集団としての存在が認められ、仕事の領域も広がり部活動も規約を改正しながら増やしてきた。

◆昭和53(1978)年

総務部、文化部、体育部、厚生部、開発部の5部会で発足する。

◆昭和54(1979)年

福祉部が設けられ6部会となる。

◆昭和55(1980)年

来原コ連協の新規約ができる。

今までの福祉の地域づくり活動、グループ活動、スポーツ活動より更に広げてコミュニティ活動を地域全体の活動にするため、コ連協の中に各集落の推進委員を加える。

◆昭和57(1982)年

青少年育成部を設け7部会とする。

◆平成6(1994)年

厚生部を福祉部に統合し、福祉厚生部とする。広報部を部として位置付ける。各部担当の事務局員を配置する。

◆平成7(1995)年

規約が一部改正される。

◆平成8(1996)年

規約が一部改正される。

副会長2人制となり1人は女性から選出。今日の体制となる。

来原音頭

昭和三十二(一九五七)年、来原農協と来原中学校、来原小学校が発議して来原音頭が生まれた。

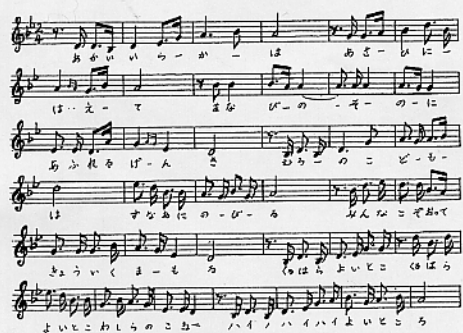
作詞は来原中学校長 菅野次郎氏、作曲は来原小学校長 光末覚氏、振付は花柳美寿弘女史によるものである。

これは、来原独特の歌と踊りで明るい村をつくらうという趣旨から生まれたもので、同年四月二十九日、来原地区民、学校の児童、生徒約千人が来原小学校に集まり、来原音頭発表会と記念運動会を行った。

この歌と踊りは、四十五年後の現在も来原小学校の運動会で、女性会を中心に歌い継がれ踊り継がれて地区民に親しまれている。

来原音頭

作詞 菅野次郎
作曲 光末 覚



一、赤い豊は朝日に映えて
 学びの園に あふれる元氣
 村の子どもは すなおに伸びる
 皆んなこぞって 教育まもる
 ソレ 来原よいとこ 来原よいとこ
 わしらの故郷
 ハイのハイハイ よい所
 二、礎固き 来原農協
 輝く偉容は 県下に響く
 それをかなめと 手を取りあつて
 互に励ます 生産増強
 三、壇地の坂や 大狩山に
 紅葉の錦を 織りなす頃は
 広い田圃にや 穂に穂が咲いて
 やしろの森に 太鼓が響く
 四、明るい希望に 力を合しや
 高北乳に 来原トマト
 たばこもたまごも 年々ふえて
 池にや真鱈が ピチピチはねる